

「自立」から「互助」へ

「超高齢社会」の今 私は、あなたは、 何ができるだろう

超高齢社会に直面している日本。

これまで誰もが「自立」を重視されてきた結果として、高齢者の孤立問題が浮き彫りとなり、社会福祉においては早急なる対策が求められています。

このような状況下で私たち東京青年会議所は、

全市民参画型で「地域包括ケアシステム」を構築し、市民同士の「互助」を促す必要があると考え、市民一人ひとりが福祉サービスの担い手になることで“他人事”をなくすことを目指しています。

これを受け6月の例会では、地域コミュニティにおける課題解決についての講演・パネルディスカッションを行いました。

超高齢社会の今、何をどのように取り組むべきか、自分事として考えていきましょう。

「超高齢社会」の今、何をどのように取り組むべきか、自分事として考えていきましょう。

HITOGOTOD



2019年6月12日、千代田区有楽町「有楽町朝日ホール」にて、東京青年会議所6月例会「いつまでも他人事って、ホンマでっか!？」を開催しました。映像放映や講演、パネルディスカッションを含めた4部構成で行われた本会では、約325名もの方にお越しいただき、盛況にて終了しました。



若者たちに「年を重ねること」を ポジティブに捉えてもらうために

誰 にも起こりえる危険をテーマとした映像放映により開始された本例会。インパクトのあるアニメーションから、「老いやハンディキャップを他人事にはいけない」という本例会の趣旨の理解が促されました。

続く第二部の基調講演では、地域の問題を地域で解決するための支援を行うコミュニティデザイナーである山崎亮氏にご登壇いただき、大阪の公園整備プロジェクトや秋田県での展覧会開催などの事例を紹介いただきました。社会参加することで明るく生きる高齢者について言及する中で、いきいきと年を重ねるその姿を、若い人に積極的に見せることが重要だと山崎氏は語ります。老いることを他人事としないこと、そして人と人が繋がり合う地域社会システムを作ることの重要性について理解することができました。



市民の互助精神を育む 地域の社会貢献活動

第 三部では、既に行われている推進運動である「ついDAY運動」のドキュメンタリー動画を放映しました。

その後、第二部で講演いただいた山崎亮氏、さらに介護領域講師である元松敏彦氏、有限会社以心伝心 代表取締役の安海将広氏、株式会社ブリッジ 最高技術責任者CTO村上嘉朗氏にお越しいただき、活動を通じてそれぞれが感じたこと、福祉における互助の関係を生み出す仕組みである「ついDAY運動」の詳細な内容や、ブロックチェーンを使ったシステムについて、説明とパネルディスカッションを行いました。それぞれの専門的な立場からの見解など、市民を参画させるための方法論について学ぶことができました。

全ての市民が助け合い いきいきと生きていける社会を作る

ま とめとなる第四部では、東京青年会議所 共生社会政策委員会副委員長 筒井太一朗君より自身の体験についてのプレゼンテーション、そして「ついDAY運動」「介護体験」の参加案内が行われ、閉会の挨拶へと締めくくられました。

本例会を通じて、いかに市民同士の「互助」が重要であるか、そして全市民参画型

「地域包括ケアシステム」の構築必要性について改めて痛感することとなりました。超高齢社会の今、「老いは自分にもいつか訪れる」ということを認識し、手を取り合って生きていける社会を作るべく行動を起こさなければなりません。

東京青年会議所は、今後も地域コミュニティの形成に先導して貢献して参ります。

